

復興に関する 子ども向けアンケート集計結果 (確定版)



福島県浪江町

平成24年3月27日 公表

調査概要

➤ 調査目的

浪江町では、東日本大震災と福島第一原発事故から立ち直るために、「浪江町復興ビジョン」の策定を進めています。そのなかで、子どもたちがいつも感じていることや、考えていることを聞いて、「浪江町復興ビジョン」や今後の行政運営の参考とするためにアンケートを実施しました。

➤ 調査対象

小学1年生から中学3年生(平成24年1月現在)

➤ 調査方法・時期

郵送により配布、回収(平成24年1月)

➤ 配布数・回収数

配布数	回収数	回収率
1,697	1,217	71.7%

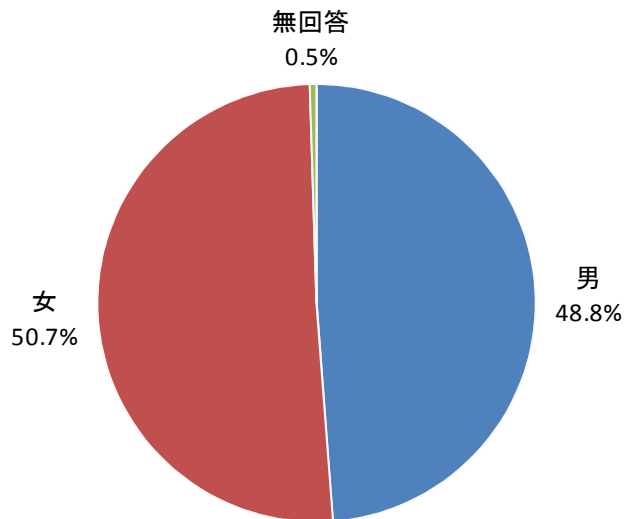
➤ その他

設問の終わりに(複数回答)とある問は、1人の回答者が複数の回答をしているため、回答の合計比率が100%を超える場合があります。

■ アンケート調査対象者

問1 性別

- ・回答者の性別に大きな偏りはない。



問2 学年

- ・学年での回答数に大きな偏りはない。

学校名	生徒数(人) (H23.4)	回答数 (人)	回答率 (%)
小学1年生	164	117	71.3
小学2年生	177	117	66.1
小学3年生	182	134	73.6
小学4年生	206	147	71.4
小学5年生	183	139	76.0
小学6年生	185	129	69.7
中学1年生	230	163	70.9
中学2年生	182	141	77.5
中学3年生	195	127	65.1
無回答	-	3	-

問3 通っていた学校

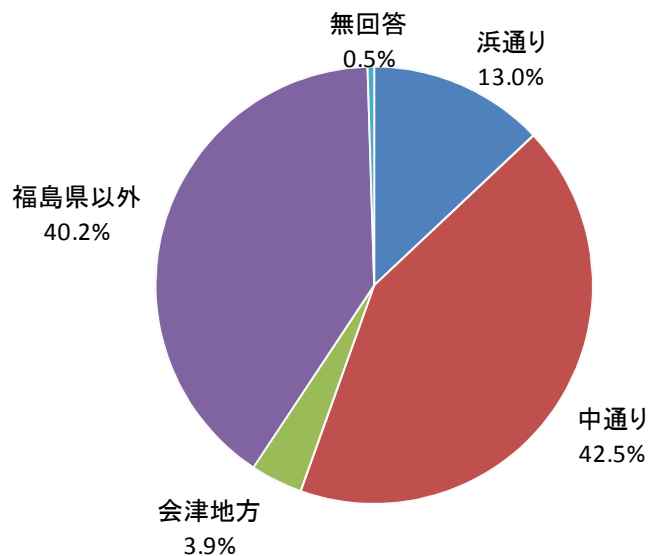
- ・各学校とも回答率が約7割と高い回答を得ている。

学校名	生徒数 (人)	回答数 (人)	回答率 (%)
浪江小学校	631	429	68.0
幾世橋小学校	141	106	75.2
請戸小学校	102	84	82.4
大堀小学校	185	125	67.6
荻野小学校	212	150	70.8
津島小学校	59	40	67.8
浪江中学校	243	173	71.2
浪江東中学校	112	81	72.3
津島中学校	22	20	90.9
無回答	－	9	－

※現在中学1年生の生徒数は、震災当時の小学校の児童数に含まれています。

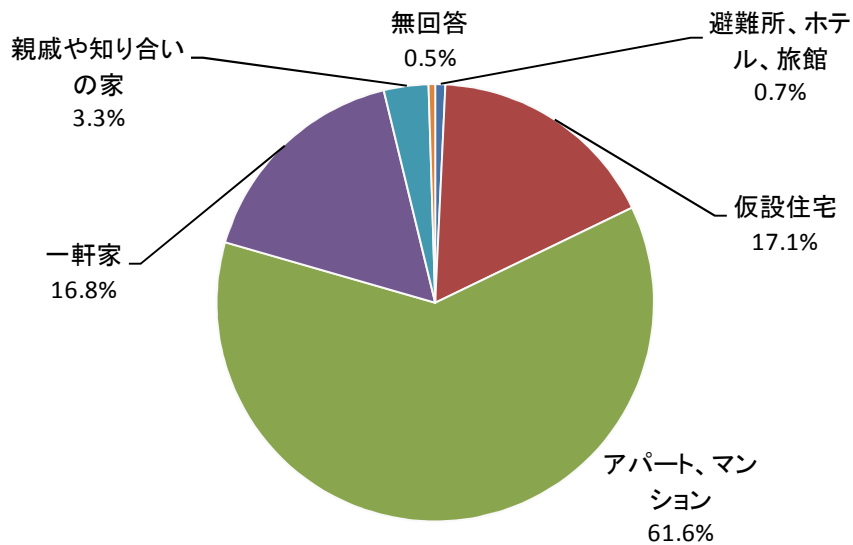
問4 今住んでいる場所

- ・「中通り」(42.5%)が一番多く、次いで「福島県外」(40.2%)が多い。
- ・福島県内には59.4%と半数以上が県内に避難しており、復興に関する町民アンケートの避難先の都道府県と似たような結果となった。



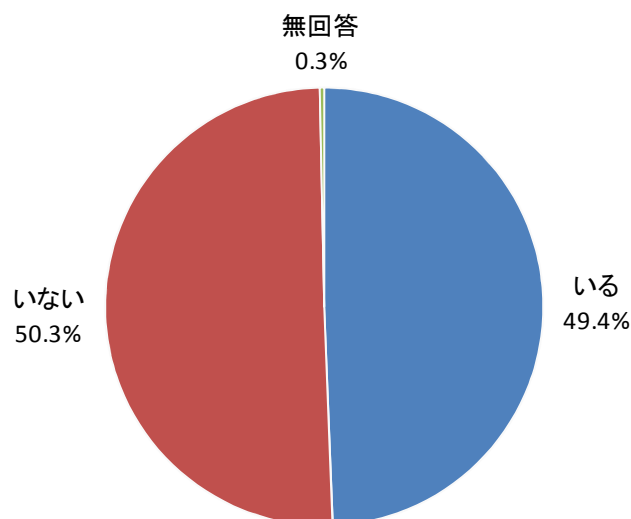
問5 今住んでいる居住形態

・「アパート・マンション」(61.6%)が一番多く、借上げ住宅に住んでいる割合が高い。「仮設住宅」は(17.1%)となっている。



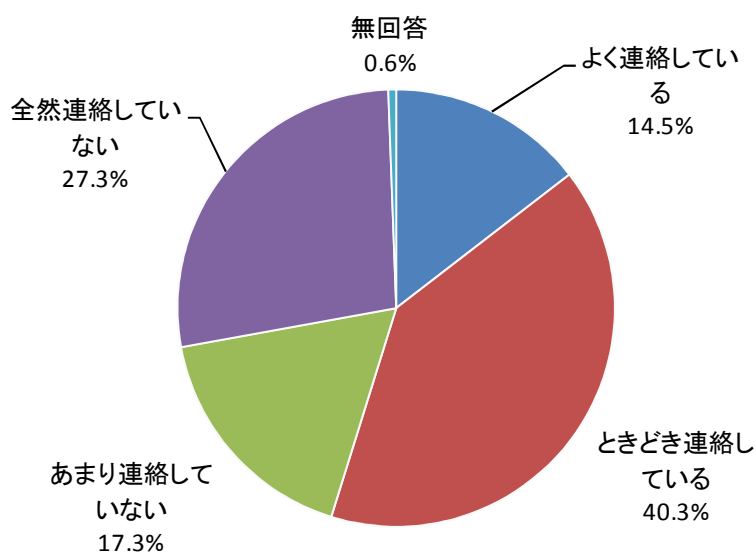
問6 今住んでいる場所とは別に住んでいる家族の有無

・今住んでいる場所とは別に住んでいる家族が「いる」は(49.4%)、「いない」は(50.3%)である。約半数の子供たちは家族がバラバラになり、一緒に暮らせなくなっている。



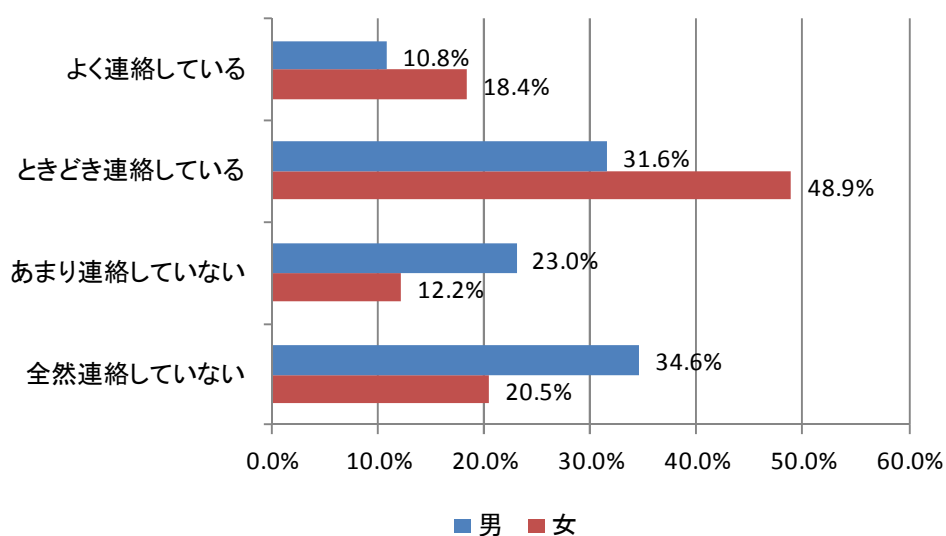
問7 浪江町の友だちとの連絡状況

・「ときどき連絡している」(40.3%)、「よく連絡している」(14.5%)を合わせると54.8%と半数以上が連絡をとっている。反対に「全然連絡していない」(27.3%)、「あまり連絡していない」(17.3%)が34.6%と連絡をとっていない子供も多い。



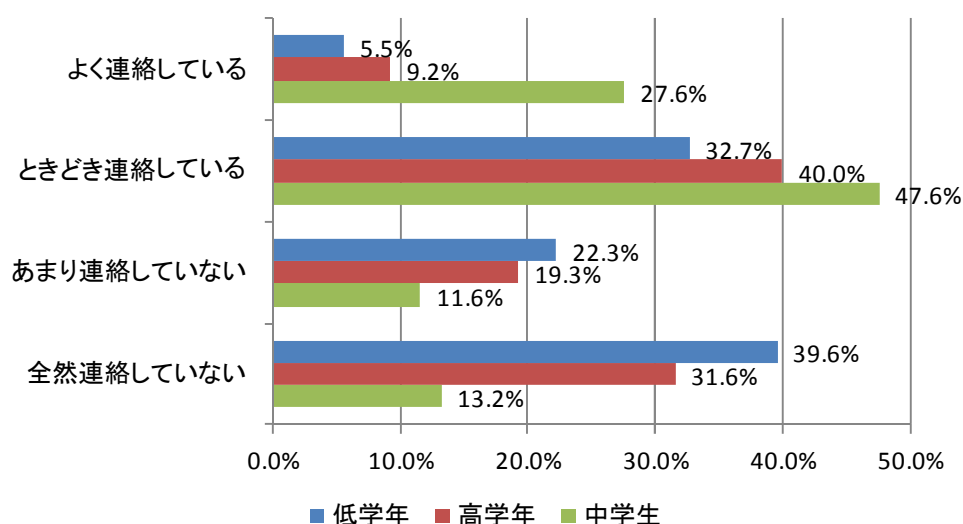
問7-① 浪江町の友だちとの連絡状況(男女別)

・女の子は、「よく連絡している」(18.4%)、「ときどき連絡している」(48.9%)を合わせると67.3%と連絡をとっている割合が高い。
 ・男の子は、「全然連絡していない」が3割強を占め、女の子の方が、浪江町の友だちと連絡をとっている状況にある。



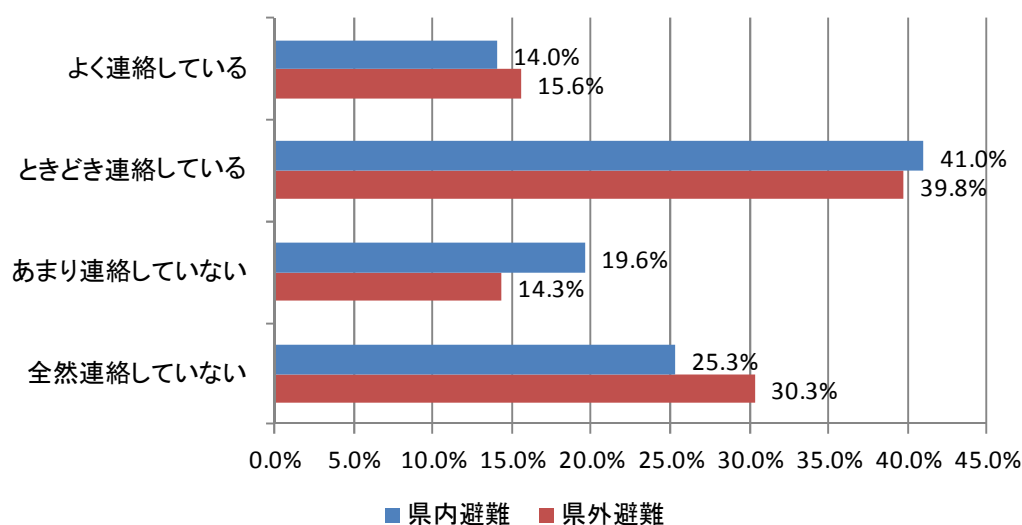
問7-② 浪江町の友だちとの連絡状況(学年別)

- ・中学生は、約7割が連絡をとっているが、高学年は、約半数、低学年は、約6割強が連絡をとっていない。
- ・中学生に比べ、高学年、低学年になるにつれ、浪江町の友だちと連絡をとれていない状況である。今後、町として、低学年・高学年の子供たちにも浪江町の友だちと連絡をとりあえるような手段を検討していく必要がある。



問7-③ 浪江町の友だちとの連絡状況(避難先別)

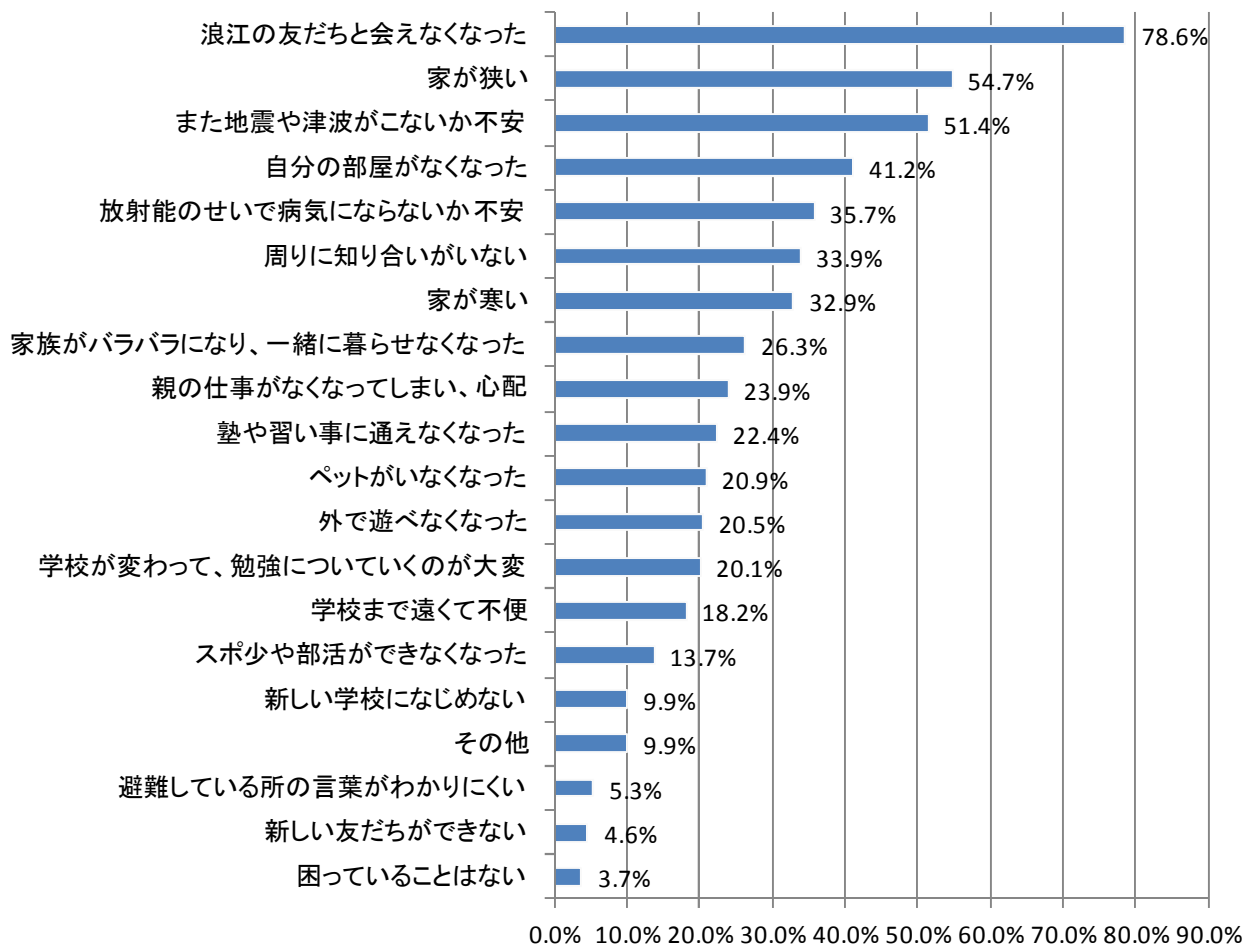
- ・県内、県外避難とも「よく連絡している」、「ときどき連絡している」は5割以上となっており、県内、県外避難とも大きな違いはみられない。



■今の生活状況

問8 今の生活で困っていること(複数回答)

- ・「浪江の友だちと会えなくなった」(78.6%)が最も多い。このほか、「家が狭い」(54.7%)、「また津波がこないか不安」(51.4%)、「自分の部屋がなくなった」(41.2%)、「放射能のせいで病気になるか不安」(35.7%)が多い。
- ・今後、友だちと再会する場を設けたり、避難先の住環境の改善、心のケア、放射能に対する知識の向上といったことが求められる。



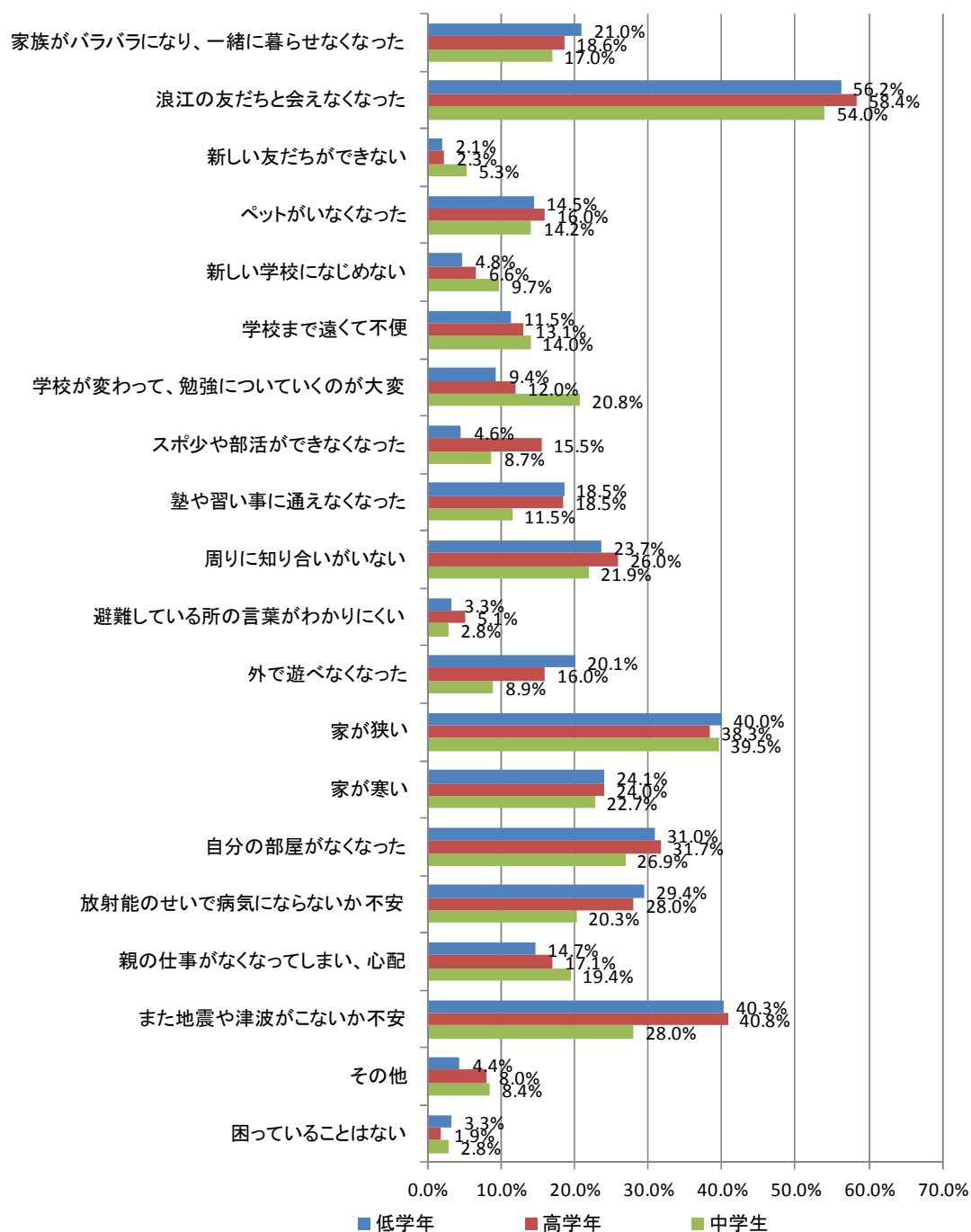
○「その他」の項目 (115件)

- ・居住環境への不満。(12件)
- ・生活環境が悪い(騒音、水道水の臭い、空気が悪い、買い物が不便など)。(10件)
- ・避難先の学校になじめない。(10件)
- ・浪江にある荷物などが持ってこれない。(9件)
- ・進路への不安。(8件)
- ・自分の部屋がなくなり不便。(8件)
- ・お金(家のローンや生活費など)の心配。(6件)

- ・親族にすぐ会いにいけない。(5件)
- ・広い遊び場がなかなかない。(5件)
- ・浪江の友だちと遊べなくなった。(4件)
- ・親の仕事に関する心配。(3件)
- ・浪江に帰りたい。早く家に住みたい。(3件)
- ・持病が悪化した。(3件)
- ・ペットが飼えなくなった。(3件)
- ・転校したら友達ができるか不安。(2件)
- ・親と一緒に暮らせなくなった。一緒に過ごす時間が減った。(2件)
- ・避難先の友だち付き合いになじめない。(2件)
- ・新しい家がほしい。(2件)
- ・成績が落ちた。(2件)
- ・浪江の友だちと連絡がとれない。
- ・おばあちゃんがうつになりみんなにストレスがたまりピリピリしてすぐキレるから怖い。
- ・マリンパークがなくなった。
- ・クラスの男子に「この小学校の子じゃない。早く浪小に帰ったら」などと言われます。
- ・祖父母と同居になり、慌ただしすぎてゆっくりする休日もない。
- ・自分と妹のケンカがたえなくなった。
- ・今まで住んでいた所などをよく思い出し、苦しくなる。
- ・家族で一番頼りになっていた人がいなくなった。
- ・学校が遠いので朝が早いし疲れる。
- ・せきをただけなのに、バイクンあつかいをされた。その時は病気だった。
- ・1人ぼっちの留守番はさびしい。
- ・ランドセルと机がなくなった。
- ・3月11日に、また地震がきそうでこわい。
- ・先が何も決まらないこと。
- ・どのくらい放射能を受けるとがんになりやすいか。
- ・海から近いから不安。

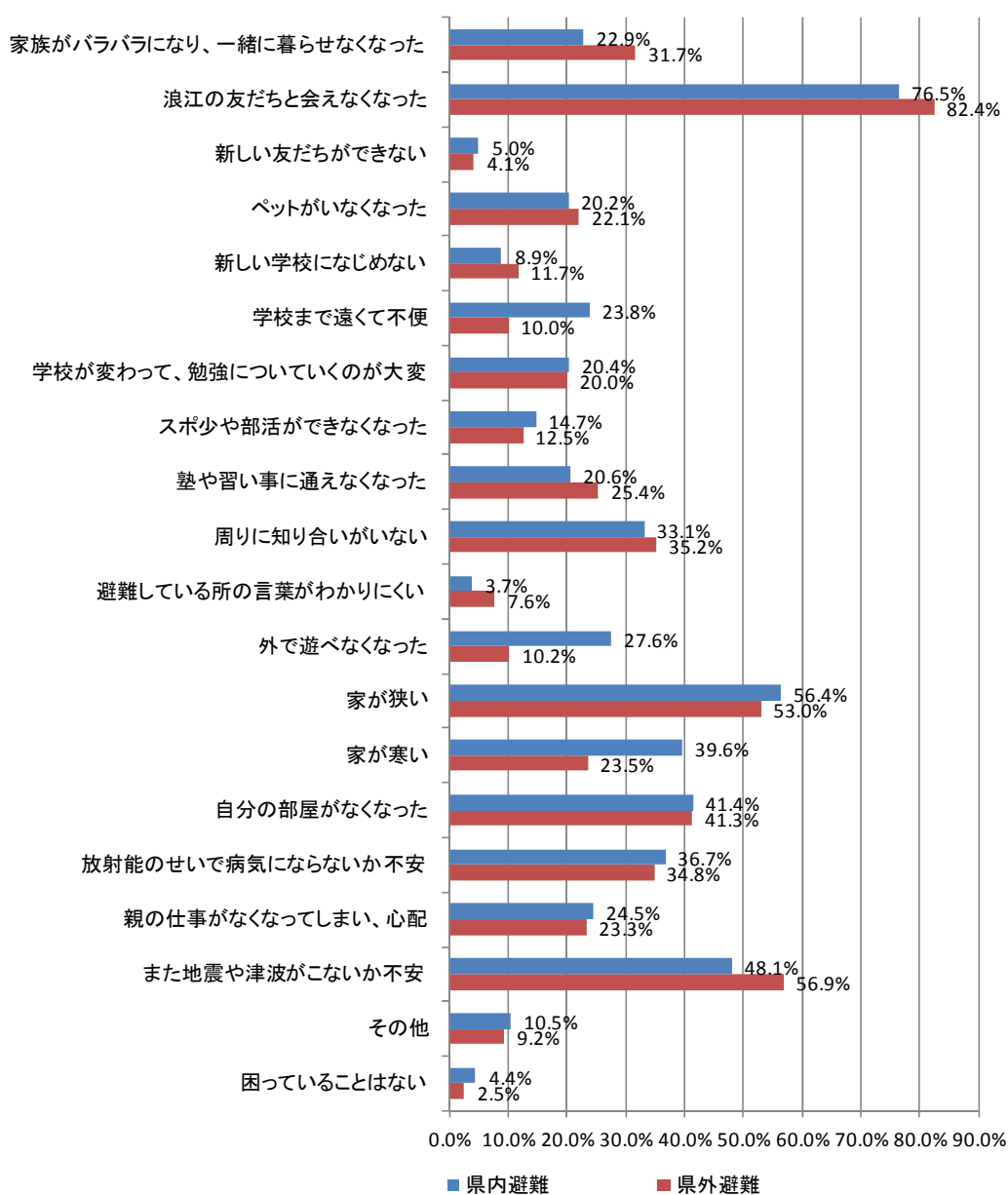
問8-① 今の生活で困っていること(学年別)

- ・中学生で、「新しい友だちができない」、「新しい学校になじめない」、「学校が変わって、勉強についていくのが大変」という回答が他の学年より高くなっている。
- ・上記以外の項目では、問8の結果と大きな違いはみられない。



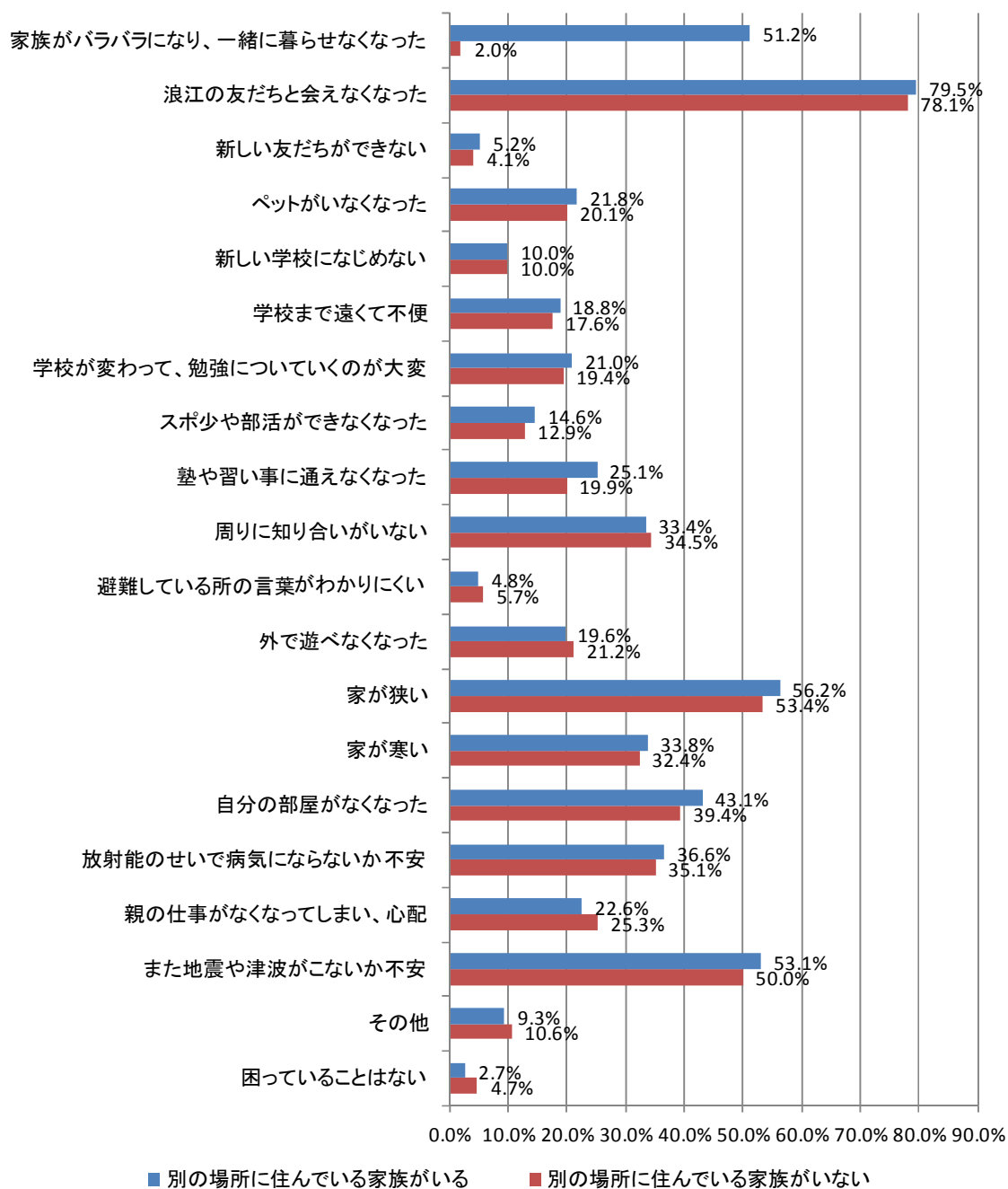
問8-② 今の生活で困っていること(避難先別)

- ・県外避難の子供たちに比べ、県内避難の子供たちは、放射線への不安から「外で遊べなくなった」(27.6%)という回答率が高い。また、「学校まで遠くて不便」(23.8%)との回答率も高く、通学環境改善が必要になってくる。
- ・県内避難の場合、仮設住宅に住んでいる子供たちがいるため「家が寒い」(39.6%)という回答率が高くなっている。
- ・「また、津波や地震が来ないか不安」の回答率は、避難先に関係なく今回の震災を経験し津波や地震への不安を抱えていることがわかる。



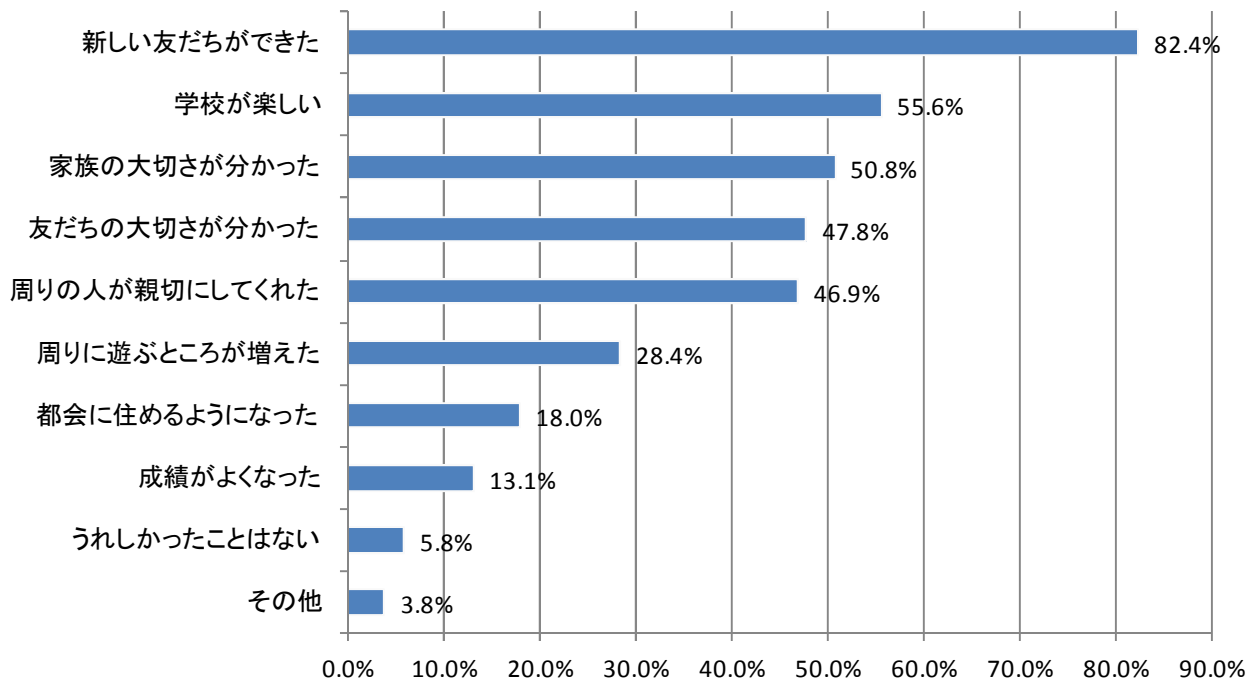
問8-③ 今の生活で困っていること(家族離別の有無別)

・別に住んでいる家族がいると回答している子供たちは、「家族がバラバラになり、一緒に暮らせなくなった」と回答する割合が高い。それ以外では、あまり大きな差はない。



問9 今の生活でうれしかったこと(複数回答)

・「新しい友だちができた」(82.4%)が最も多い。このほか、「学校が楽しい」(55.6%)、「家族の大切さが分かった」(50.8%)、「友だちの大切さがわかった」(47.8%)、「周りの人が親切にしてくれた」(46.9%)が多い。



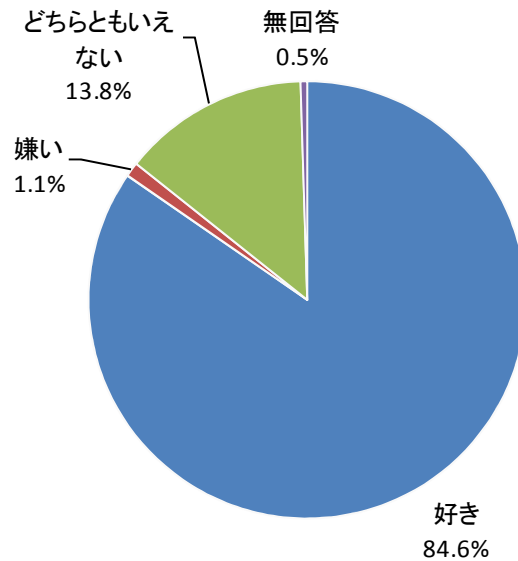
○「その他」の項目 (45件)

- ・浪江にいたら経験できないことができた。(8件)
- ・避難先の学校やスポ少などになじめた。(6件)
- ・浪江の時の友だちや先生などに会えたことや連絡がきたこと。(6件)
- ・いろいろな場所に遊びにいけるようになった。(5件)
- ・部活が楽しい。(4件)
- ・家族と一緒にいる時間が増えた。(3件)
- ・浪江の友だちが同じ学校にいる。(2件)
- ・放射能の心配がなくなった。(2件)
- ・学校が近くなったことや、交通の便がよかった。(2件)
- ・大変な事がほとんど。精神的にも！！
- ・身長が浪江にいる時より早くのびるようになった。
- ・心配なことがなくなった。
- ・やっと今の生活になれることができた。
- ・自分の部屋ができてうれしかった。
- ・両親が仲良くなった。
- ・広島弁をすこしおぼえたこと。

■ 浪江町のこと

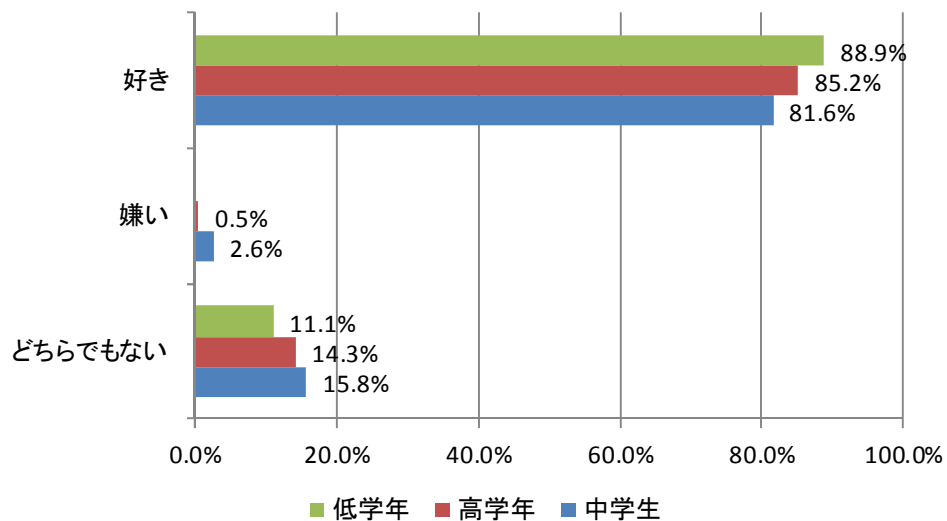
問10 浪江町のことが好きですか

- ・ほとんどの子供たちが「好き」(84.6%)と回答している。中には、「大好き」と記載している回答もあり、浪江町を想う気持ちの強さが見受けられる。
- ・このような子供たちの想いを受け止め、「ふるさと なみえ」を元の姿に戻せるよう取り組んでいくためにも『ふるさと なみえ の再生』を図ることが必要になってくる。



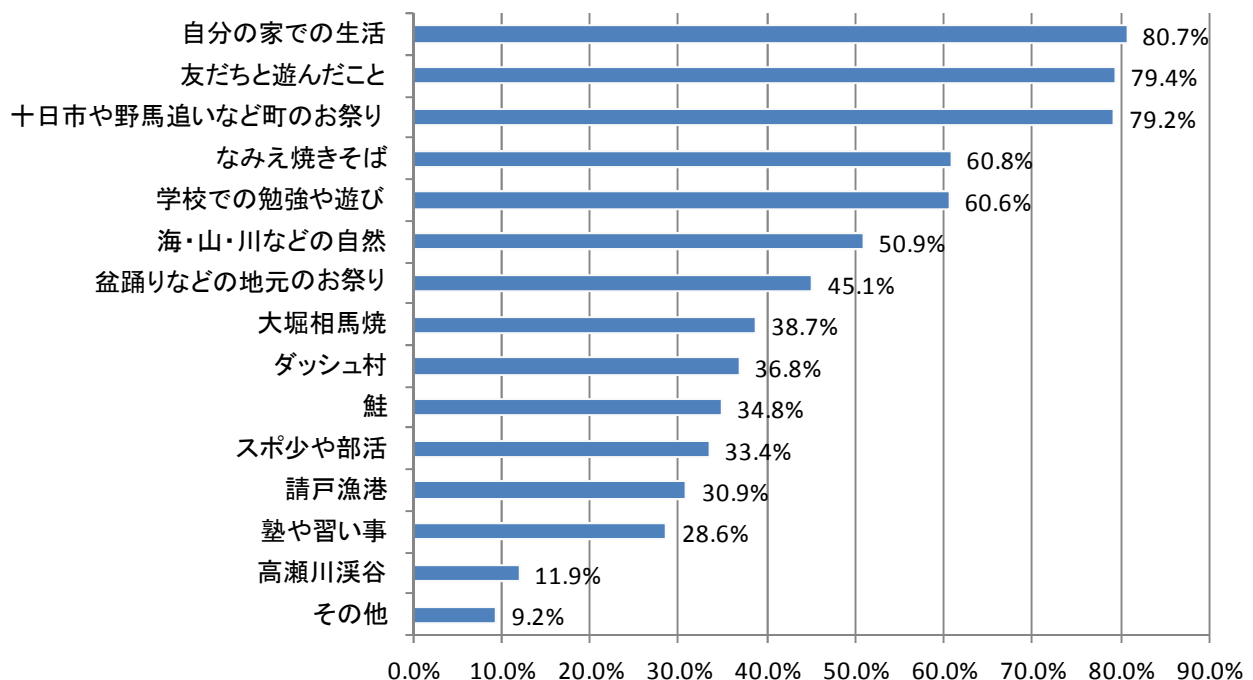
問10-① 浪江町のことが好きですか(学年別)

- ・低学年から中学生までのほとんどの子供たちが「好き」と回答している。一方で学年があがるごとに、「嫌い」、「どちらでもない」という回答が多くなっている。



問11 浪江町と聞いて思い浮かぶこと

- ・「自分の家での生活」(80.7%)が最も多い。このほか、「友だちと遊んだこと」(79.4%)、「十日市や野馬追など町のお祭り」(79.2%)、「なみえ焼きそば」(60.8%)、「学校での勉強や遊び」(60.6%)が多い。
- ・子供たちの回答からもわかるように、町民の幸せな暮らしを取り戻すために『すべての町民の暮らしの再建』を第一に考え、その後、浪江での豊かな暮らし、町のお祭り、伝統行事など、『みんなのふるさとである なみえ』を取り戻すことが必要となってくる。



○「その他」の項目（45件）

- ・海、マリンパーク、いこいの村、桜祭り、サンプラザ、ほていやなど。(52件)
- ・浪江の学校の先生や友だち。(16件)
- ・飼っていたペットと遊んだこと。(5件)
- ・浪江の町並みや気候。(5件)
- ・田植え踊りやよさこい。(2件)
- ・浪江大好きです。(2件)
- ・全部。
- ・原発。
- ・お父さんの消防団。
- ・うちのまわりに森林がたくさんあった。
- ・思い出すと悲しい気持ちになるので考えないようにしている。
- ・家の牛舎のにおい。そこで働くお父さんの姿。

- ・おもちゃ。
- ・家の庭にあったみかんの木や柿の木、びわの木。庭で自転車で遊んだり、トランポリンをしたこと
- ・海が近いと聞いてたので楽しみにしていた。浪江に帰るのを自分ながら期待して楽しみにしていた。
- ・雪での遊び。落ち葉でやきいもを焼いたこと。
- ・請戸で見る初日の出。
- ・おもいっきり走れた。
- ・家のお墓。
- ・バーバー戸田。
- ・死の町。
- ・3月11日の地震と津波。
- ・尊敬する方々。(剣道関連の先生・先輩)
- ・自然が豊かで伝統。
- ・知命寺マンション。
- ・各お店。
- ・おじいちゃんがつくっていた畑、田、庭。
- ・友だちと笑顔で遊んでいた事を思い出して今でも、それを思うと苦しくなります。
- ・思い出すのがいやだ。
- ・安心できる場所。
- ・近くの、おじいさん、おばあさんがやさしかった。

■自由意見

自由意見の記述内容については、別冊子にて公表いたしますので、このアンケートでは意見を分類した形で記載させていただきます。

問12 大人になったとき、浪江町はどんな町になってほしいですか (972件)

- 震災前の元の浪江町(322件)
- 放射能の心配がなく、安全安心で、きれいな町(302件)
- 明るく、元気な町(活気がある町。笑顔がある町。住みやすい町。など)(141件)
- 自然豊かな町(41件)
- 自由に立入が出来る町(帰れるようになってほしい)(31件)
- 災害に強い町(28件)
- 人が住める町、人がいっぱいいる町(24件)
- 浪江町には戻れない、浪江町は無くなっている(24件)
- 平和な町(21件)
- もっと都会らしく、お店や公園などがたくさんある町(17件)
- 原発がない町(6件)
- なかよく、みんな、えがおの町(5件)
- その他(10件)

問13 その他、町長にお願いしたいこと (737件)

- 帰町に関すること(223件)
 - ・浪江町に帰りたい(162件)
 - ・町に戻ることは出来ない(線量の問題、学校の問題など)(23件)
 - ・戻れるか、戻れないか明確にしてほしい(16件)
 - ・別の場所に浪江町を作してほしい(16件)
 - ・戻れないなら早く賠償をしてほしい(6件)
- 友だちと集まれる機会を設けたり、浪江の時の学校を再開してほしい(146件)
- 復興や除染に関すること(143件)
 - ・浪江町を復興してほしい(震災前の元の浪江町にしてほしいなど)(73件)
 - ・除染をして、きれいな町、安全な町にしてほしい(58件)
 - ・除染は無理(補償を優先してほしいなど)(8件)
 - ・町(双葉郡含む)に中間貯蔵施設を作らないでほしい(4件)
- 町長への応援、ねぎらいなど(71件)
- 一時帰宅や学校にあるランドセル等の持ち出しに関すること(35件)
- 住環境に関すること(22件)
- 補償・賠償に関すること(20件)
- 国、東電(原発)に関すること(16件)
- 学校(小・中学校)に関すること(11件)
- 将来(進学)に関すること(7件)
- アンケートに関すること(6件)
- 内部被ばく検査、甲状腺検査等、放射能に関すること(3件)
- その他(34件)

付属資料 子供向けアンケート調査票

浪江町

子ども向け調査票
(小学1年生～中学3年生)

浪江町 復興に関するアンケートのお願い

浪江町では、東日本大震災と原子力発電所の事故から立ち直るために、「いつまでに、どんなことに取り組むか」ということを計画した、「浪江町復興ビジョン」を作っています。

このアンケートでは、みなさんがいつも感じていることや、考えていることを聞いて、「浪江町復興ビジョン」の参考にします。

みなさんに書いてもらった内容は、コンピューターで処理します。名前は書かなくてよいので、ぜひ、アンケートに協力してください。答えの中身を他の人に知られることはありません。

平成24年1月

浪江町長 馬場 有

【記入にあたってのお願い】

◆このアンケートは、小学1年生～中学3年生にお願いしています。小学1年生～中学3年生の皆さん本人が答えてください。

◆封筒・アンケートのどちらも、住所や名前を書かないでください。

◆全部書き終わったら、一緒に入っていた水色の封筒に入れて、封をしておうちの方に渡すか、**1月31日(火)**までに郵便ポストに入れて送ってください。切手はいりません。

【保護者の方へ】

このアンケート調査は、小学1年生～中学3年生の方全員を対象にしております。対象となる方の登録されているご住所へ、世帯の対象人数分を郵送しておりますが、もし、調査票が足りない場合は、お手数ですがコピーしてご利用くださるようお願いいたします。

また、幅広い年代へのアンケートとなっておりますので、小学校低学年のお子さまにとっては回答が難しい質問もあります。小学校低学年のお子様の回答にあたっては、お手伝いいただければ幸いです。

【問い合わせ先】 浪江町役場 二本松事務所 行政運営班 小林、大浦
電話：0243-62-0123(代表) Fax：0243-22-4261

あなたのことについてお聞きします。

【 あてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。 】

問1 あなたの性別を教えてください。

1. 男 2. 女

問2 あなたの学年を教えてください。

1. 小学1年生 2. 小学2年生 3. 小学3年生
4. 小学4年生 5. 小学5年生 6. 小学6年生
7. 中学1年生 8. 中学2年生 9. 中学3年生

問3 浪江町にいた時に通っていた学校を教えてください。今小学1年生の人は、通う予定だった小学校を教えてください

1. 浪江小学校 2. 幾世橋小学校 3. 請戸小学校
4. 大堀小学校 5. 苅野小学校 6. 津島小学校
7. 浪江中学校 8. 浪江東中学校 9. 津島中学校

問4 今住んでいる場所を教えてください。

1. 福島県の浜通り 2. 福島県の中通り 3. 福島県の会津地方
4. 福島県以外

問5 今住んでいる家について教えてください。

1. 避難所、ホテル、旅館 2. 仮設住宅 3. アパート、マンション
4. 一軒家 5. 親戚や知り合いの家

問6 浪江町にいた時は一緒に住んでいたが、今は自分が住んでいる場所とは別の場所に住んでいる家族がいますか。

1. いる 2. いない

問7 今でも浪江町の友だちと連絡をとりあっていますか。

1. よく連絡している 2. ときどき連絡している
3. あまり連絡していない 4. 全然連絡していない

いま せいかつ
今の生活についてお聞きします。

問8 浪江町にいた時とくらべて、今の生活で困っていることはありますか。

【 あてはまるものすべてに○をつけてください。 】

1. 家族がバラバラになり、一緒に暮らせなくなった
2. 浪江の友だちと会えなくなった
3. 新しい友だちができない
4. ペットがいなくなった
5. 新しい学校になじめない
6. 学校まで遠くて不便
7. 学校が変わって、勉強についていくのが大変
8. スポ少や部活ができなくなった
9. 塾や習い事に通えなくなった
10. 周りに知り合いがいらない
11. 避難している所の言葉がわかりにくい
12. 外で遊べなくなった
13. 家が狭い
14. 家が寒い
15. 自分の部屋がなくなった
16. 放射能のせいで病気になるか不安
17. 親の仕事がなくなってしまい、心配
18. また地震や津波がこないか不安
19. その他(具体的に _____)
20. 困っていることはない

問9 今の生活のなかでうれしかったことはありますか。

【 あてはまるものすべてに○をつけてください。 】

1. 新しい友だちができた
2. 周りの人が親切にしてくれた
3. 学校が楽しい
4. 成績がよかった
5. 都会に住めるようになった
6. 周りに遊ぶところが増えた
7. 友だちの大切さが分かった
8. 家族の大切さが分かった
9. その他(具体的に _____)
10. うれしかったことはない

なみえまち
浪江町についてお聞きします。

問10 浪江町のことが好きですか。

【 あてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。 】

1. 好き
2. 嫌い
3. どちらともいえない

問 11 浪江町と聞いて思い浮かぶことは何ですか。

【 あてはまるものすべてに○をつけてください。 】

1. 自分の家での生活 2. 友だちと遊んだこと 3. 学校での勉強や遊び
 4. スポーツや部活 5. 塾や習い事 6. 海・山・川などの自然
 7. 十日市や野馬追など町のお祭り 8. 盆踊りなどの地元のお祭り
 9. なみえ焼きそば 10. 鮭 11. 大堀相馬焼 12. 請戸漁港
 13. 高瀬川溪谷 14. ダッシュ村
 15. その他(具体的に _____)

問 12 大人になったとき、浪江町はどんな町になってほしいと思いますか。自由に書いてください。

問 13 その他、町長にお願いしたいことはありますか。自由に書いてください。

*質問はこれで終わります。最後まで答えていただき、ありがとうございました。